

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2393300047		
法人名	有限会社 はっぴい		
事業所名	グループホーム はっぴい (たけしま)		
所在地	愛知県蒲郡市三谷町伊与戸1-2		
自己評価作成日	平成27年12月10日	評価結果市町村受理日	平成28年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2393300047-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2393300047-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	平成28年1月19日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

砥神(とがみ)山の麓に位置し、少し歩けば三河湾が一望できる山海共に恵まれた環境にあります。建物は三河の材をふんだんに使った木造平屋建てで、食堂は吹き抜けで天窓があり明るくゆったりとした空間になっています。お祭り等の行事が盛んな地域で、それらへの参加や、近隣の学校の催し、運動会、近隣地域で行なわれる花火大会の鑑賞等を楽しんでいます。施設での定期的な行事以外に、木曜日にはドライブ、喫茶店等へ出掛け、好きな飲み物、おやつを食べ、お喋りをして気分転換を図り、日々の生活の一環である買い物、家事、入浴等は一緒に楽しめるように支援しています。誕生日には、やりたい事、行きたい所の希望を伺い、かなえられる様個別で対応しています。地域の方、ご家族共に支え合う関係を保ち毎日安心して過ごせるように支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は閑静な住宅地の中に位置し、落ち着いた木造作り平屋建は地域に溶け込んだ佇まいとなっている。砥神山の裾野が広がる道の木々や草花に、四季の移ろいを感じながら散歩や買い物を楽しめる環境にある。「じっくり・ゆったり」の理念を基に職員は、入居者それぞれが自分らしさを発揮し安心して楽しく過ごせるように、入居者に寄り添った支援に取り組んでいる。地域の伝統行事の獅子舞や黒ごまなどを事業所で行い、近隣の人も大勢参加し賑わいをみせ、地域の方々にも馴染みの催しとなっている。入居者の希望を取り入れた献立は、買い物や敷地内の菜園で収穫した野菜などを食材にしている。日々、入居者と一緒に調理する手作りの食事は、生活をしていく中で活かし自分らしさを発揮できる支えとなっている。編み物などの手芸、ペンキ塗りや大工仕事、畑仕事など、培った経験を生活の中で活かせるように、職員はこれまでの暮らしやその人の力を支えるようにしている。広くゆったりとした居間や廊下には、絵画や入居者の作品がさりげなく飾られ、落ち着いたリビングで入居者は趣味に取り組んだり、職員との会話を楽しんだりしてゆったりと過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の付く場所(トイレ、玄関)に理念を貼り出し常に意識をしています。月に1度の全員参加の会議時、順番に理念の復唱を行ない、理念の共有を図っています。	理念は常に職員の目につき、意識することの出来る玄関や事務所、トイレなどに掲示してある。また、月に一度の会議で唱和を行ない、振り返りを行うことにより理念の理解と共有を深め、ケアに繋げる努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者との散歩時、近所の方と挨拶を交わし、地域のお祭り、運動会等への参加、正月には地域の方を招き獅子舞を披露し甘酒をふるまう等利用者と地域の方との交流に努めています。	町内会に加入し、回覧板や運営推進会議等で情報を得て、様々な地域行事に参加している。近隣の保育園との交流会や運動会に参加したり、施設内行事に地域の方を招いて一緒に触れ合ったりして交流を深めている。日常的には散歩や買い物等で地域の方とのふれあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方とも顔なじみになりグループホーム自体の内容も理解を得られるようになって来ました。今後も認知症のいっそうの理解や支援を得る事が出来る様地域のコミュニケーションに努めていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催、その間に行なわれた施設行事や利用者の状況報告を行ない、内容についての意見を委員の方から1人ずつお聞きし、サービス向上にかすようにしています。	家族代表、ボランティア代表、民生委員、地域代表、地域包括支援センター、市職、事業所職員の出席を得て2ヶ月に1回開催している。事業所の現状報告や、地域との情報交換、その時どきの議題に応じて熱心に討議されている。出された意見や要望はカンファレンス等で話しあわれ、運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方にはホーム運営推進会議の委員として参加して頂いており、利用者の情報交換等色々な話が出来る関係を築けています。また市に入る情報を役所訪問時に施設に提供して頂いています。	運営推進会議への出席や更新手続き、相談等で市の窓口を訪れ指導やアドバイス、情報を得るなど連絡を密に取り、協力関係を築いている。市の研修会に参加したり、包括支援センター主催の連絡協議会に月1回参加し情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、勉強会等で学んだ身体拘束の知識、判断基準を、毎月の会議において管理者及び全ての職員が再確認を行なうと共に、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束について、研修で学んだ知識を毎月の会議において、全職員で再確認すると共にヒヤリハットメモ等を参考にケースカンファレンスを行なうなど、生活をしていく中でのバリアフリーに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の会議において、虐待防止をテーマに勉強会を実施、特に「言葉の虐待」について振り返り注意を払うように心掛けています。管理者、職員が近況報告を行ない、虐待を未然に防ぐ体制作りにも努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は権利擁護の内容を理解し、この制度について研修、勉強会等で学ぶ機会を持ち、それらを必要とされる利用者に対し活用出来るように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者の状況に応じ、時間を掛け分かりやすく説明を行なうよう心掛けています。説明後は不安点や疑問点をしっかりと確認しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、家族会の開催時に家族と会議を行ない、家族の意見、要望をお聞きし、内容を皆さんと討論し運営に反映させています。その後は食事や催し物を行ない、利用者、家族共に楽しく過ごされています。	入居者からは日々のケアや会話の中から、家族からは、年1回の家族会、月1回の支払時、面会や行事など機会あるごとに意見や要望を聞き、職員間で討議し運営に反映させている。家族には毎月発行の「はっぴい便り」や介護記録の送付で情報を発信し、安心を得ている。ご意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第2火曜日の夜施設会議を実施し、会議時には利用者個々の状況確認を行ない、運営に関しては全職員に問題点や効率化の提案をして頂き検討を図っています。	毎月、職員全員参加で行われる会議で、入居者個々の介護状況の確認をする中で、意見や提案を聞き、カンファレンス等で話し合い運営に反映させている。各ユニットリーダーから管理者に届く話しもある。また、日常の業務や休憩時間などで話し合うこともあり、明るく話しやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が「明るく楽しく元気良く」働く事が出来る環境を目指し、職員とのコミュニケーションにて身体の調子や人間関係を確認、改善出来る所は改善しやりがい、向上心を持って働く事の出来る環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地区のグループホーム協会主催の研修や勉強会に順番に参加し、スキルアップに努めています。月に1度の会議では、毎回テーマを決め勉強会を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地域(東三河)のグループホーム連絡協会に加入しており、会議や勉強会など意見交換を密にしています。近隣のグループホームのイベント等に参加し交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に、これまでの生活状態や本人の全体像を把握できるように話を伺い、入所後は本人が安心して新しい生活になじんで頂くような関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に、家族の不安、要望等をお聞きし、利用者との関係を大切にしながらサービスを提供出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、今までの担当者からの情報を把握し「その時」必要な支援を見極め、それに応じたサービスを提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で利用者の「出来る事」「やりたい事」を職員と一緒にしない、共同生活を行なう仲間としての関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「はっぴいだより」を発行し、近況報告、行事予定を伝えると共に、面会時には、利用者の現在の状況を報告し、職員は、家族と共に利用者を支えていけるような関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時のアセスメント、日常会話の中から本人のこれまでの馴染みの人や場所の情報をつかみ、家族の協力も得て外出等を行ない、関係の継続に努めています。	入居前の生活情報の中や日常の会話の中から、馴染みの人や場所を聞いてケアに繋げる努力をしている。馴染みの美容院や床屋の利用、自宅に帰ったり友人の家を訪問することもある。近くのコンビニやスーパー、喫茶店等は新しい馴染みとなっている。外出には家族の協力も得ながら関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で利用者個々の状態を共有、把握し、利用者の孤立を防ぎ、利用者同士が支え合う関係を築く事が出来るような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退去されても、近隣である為近況が分かる事が多く、必要時には相談に応じ、支援させて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントに加え、日々の生活の中で利用者さん個々に応じた対応を心掛け、思いを汲み取り希望を叶えるようにしている。得た情報はPC記録、申し送り、カンファレンスにて職員間で共有を図っている。	理念に沿った傾聴を心がけ、思いや暮らしの希望を把握するように努めている。得た情報は記録し、申し送りやカンファレンスで話し合い、共有を図ると共に思いを叶える努力をしている。困難な場合は、家族の協力を得たり、本人の希望や意向を職員で検討し、本人の思いに叶うように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人、家族からこれまでの生活歴、現在の生活環境、サービス利用状況の話を行うと共に、事業所からも情報の提供をして頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員個々で利用者さんの状況を把握し、PC入力記録を行い、全職員がいつでも確認出来るようにしている。確認が必要な事は、事務所保管の申し送りノートに記入し、サインチェックを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン実施表にて、職員が毎日チェックを行い、担当職員が評価、計画作成者に伝え、ケアカンファレンス時に見直しを図っている。本人、家族には随時お話を伺うと共に、計画の承認を得ている。	介護計画に沿った「ケアプラン実施表」で毎日チェックを行ない、3ヶ月ごとに「出来ること出来ないこと」シートを基に見直しを行っている。担当制でケアをしているが、どの職員も同じケアが出来るように情報を共有している。本人や家族には機会あるごとに話を聞き計画作成に反映させている。状況変化に合わせ随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子をその都度PC入力にて個別に記入、職員間で情報の共有を図ると共に、ケアプラン実施表にて毎日チェックを行ないカンファレンス、会議にて見直しを図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況の変化に応じた外出支援、医療機関受診、ボランティアの受け入れ等柔軟な対応を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お抹茶、読み聞かせ、ギター等のボランティアの方が来て下さったり、消防と協力し防災訓練を行なう等、暮らしを安全で楽しむ事が出来るように取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1/4W、内科医の訪問診療を受けられています。通院、他科受診は家族対応をお願いしていますが、難しい場合は職員が付き添い、結果を家族に報告しています。	かかりつけ医は、入居時に希望を聞き、希望に沿った対応をしている。通院及び他科受診は家族対応をお願いしているが、困難な時は支援をしている。4週間に1回内科の訪問診療を受けている。診察結果は家族から聞いて記録し、申し送り等で周知している。また訪問診療や職員が付き添った場合は家族に報告するなど適切な医療提供を行なっている。している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入居者の日々の心身の状態を観察、看護職員に報告し指示を仰ぐと共に、必要時には主治医に報告し、適切な受診や看護を受けられる様支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に伺い、病院関係者に状態を確認、利用者にとって最善と思われる状況を見極めながら安心して退院できるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期におけるあり方について家族に意向を確認、事業所として出来る事、方針を説明し同意を得ています。医療機関と連携を取り本人や家族に不安を与えないよう支援しています。	重度化や終末期に向けた方針については、入居時に家族に説明をし同意を得ている。関係者や医療機関と十分な話し合いを行ない、事業所で出来ること出来ないことを確認しあいながら看取りを行なった。今後は、経験を基に残された課題について検討を重ね支援に取り組んでいく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成して対応しているが、事故発生時にはカンファレンス、会議等で事例検討にて原因を究明し見直しを図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、近所には回覧板でお知らせして、昼夜間時の火災を想定した避難訓練を消防署立ち会いの下行なっています。備蓄用倉庫に備蓄用品を準備し、各居室の入口には頭巾を設置してあります。	年2回災害避難訓練を行っている。消防署立会いの下で避難訓練を行い、講評を得て改善に取り組んでいる。火災や震災、警戒宣言時等を踏まえた事業所独自の消防計画を作成している。訓練実施後は職員で課題を話し合ったり、運営推進会議でも取り上げ対策が話し合われている。地域との協力体制はチラシでお知らせし協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんに尊厳の気持ちを持った声掛け、話し掛けで対応しています。申し送り時は他の方に内容を知られないよう場所等を配慮し、排泄関係の言葉掛けは入居者さんの羞恥心に配慮しています。	人生の先輩として尊厳の気持ちを持ち、そのひとりの人格を尊重した対応に心がけている。プライバシーに配慮した言葉かけや誰が聞いても不快にならない言葉かけなどに留意している。不適切な対応があった場合はすぐに注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、自分の思いや希望を自己決定出来るように声掛けをしています。自己決定が難しい方に対しては、生活歴等を把握し、本人の表情、仕草から読み取る努力を行なっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは概ね決まっていますが、その中でも各個人のペースを大切にして、食事、外出、入浴等希望に添えるよう努め支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には帽子、スカーフ、化粧品のお洒落を楽しんで頂き、自分で行なう事が難しい方は本人の意向を伺い、職員と一緒に服選びをしています。なじみの美容院がある方には、送り迎えの支援を行なっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる喜びを得られるよう日々利用者個々の嗜好に注意を払い、食事の献立を作成しています。利用者の出来る範囲で職員と一緒に買物、食事準備、後片付けを行なっています。	食事が楽しみになるように、日々の献立は入居者の希望や嗜好を取り入れている。季節や地産のものを上手に使ったり、敷地内の菜園で取れた野菜も食卓に上ることがある。買い物から食事作り、後片付けまで、出来る範囲で入居者と共に行ない、食卓も一緒に囲み、楽しい雰囲気を作っている。手作りおやつや外食ツアー、誕生食も楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、おやつは栄養バランスに配慮し、個々に合った量、形態で提供しています。起床時、入浴後の水分補給、自己管理の可能な方はポットを用意し、お茶を提供、毎日交換を行なっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行ない、ひとりでは難しい方には職員が付き添っています。口腔状態により歯間ブラシ等を利用し、夜間は義歯を外し定期的に義歯、口腔ケア用品の消毒を行ない口腔内の清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、各個人に合った声掛け案内を行なう等個々に合った支援をしています。個々に適した衛生用品を勧め、出来るだけ下着を使用して頂けるよう努めています。	排泄チェックシートを活用し、その人にあった声かけや誘導に努めている。排泄の自立に向けて、冬季には温風ヒーターを設置するなどトイレ環境を整えたり、衛生用品の始末の工夫もしている。下着や衛生用品なども個々にあったものを勧めたりして、トイレでの排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶はポットに常に飲めるよう用意しており、食事時以外でも起床時、入浴後、その他随時水分補給の声掛けを行なっています。朝食時には乳製品を摂取、献立も繊維の多い食材を取り入れる工夫を行なっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夕方から入浴される事は多いですが、時間の無理強いはいらないよう心掛けています。季節に応じてゆず湯、菖蒲湯等バリエーションを変えて楽しんで頂けるよう工夫しています。	2日に1度、午後の時間帯で希望に合わせて入浴を行なっている。個々の状況に応じて無理強いせず、気分転換を図ったり隣のユニットの風呂を勧めるなどの工夫をしている。毎日の入浴は夕方に行い、夜の入浴希望にも対応している。個人用のタオルや足ふきマットを整え、清潔に配慮している。季節のゆず湯や菖蒲湯なども楽しんでる。湯や使用物品の清潔にも留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションへの参加、散歩、買物等により生活リズムを整えるように努めています。個々の希望に応じエアコン、湯たんぽ、雨戸等を使用し、眠剤等を使用しないで休んで頂けるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容を全職員がすぐ確認出来るようにファイリングしています。薬は1回毎に分包し、名前、時間を記入、朝食後薬には赤線で印を付け、服薬時は利用者と共に確認、飲み終わりも確認を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事に関しては、利用者個々の出来る範囲で職員と一緒に準備、調理、後片付けを行なっています。誕生日には外食、嗜好品を楽しませ、お抹茶、読み聞かせ等のボランティアを、定期的に楽しませています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩においては、歩行困難な方は車椅子を使用、買物、回覧板は利用者と一緒に掛かっています。なじみの美容院への送り迎えの支援、なじみの場所へのお出掛けは、家族と相談しながら行なっています。	天候の良い日には毎日職員と一緒に散歩に出かけている。歩行困難な方は車椅子を使い、買い物や回覧板なども一緒に出かけている。馴染みの美容院や行きつけのお店、誕生日外出などは家族と相談をしたり協力を得ながら支援に努めている。季節の花見やみかん狩り、ラグーナなどにも計画を立て出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の個々の持てる力に応じて買物を楽しんで頂き、支払いをして頂く機会を作っています。自己管理が可能な方は少額のお金を自己管理されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が希望される時は、事務所の電話を使用してもらっています。手紙のやり取りを希望される方には、その都度必要品を準備し、手紙、はがきを書いて頂き、ポストまで職員と一緒に行き投函されています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内は木を多く使用している為、落ち着きがあり、窓は大きく日光を十分取り入れる事が出来る為明るいです。広さに余裕があり、主要道路から少し離れている為静かで過ごしやすい環境になっています。	木造で吹き抜けの天井があるワンフロアの食堂兼居間は、明るく広々と開放感がある。フロアからは入居者の動きや気配が良く見渡せるようになっている。共用空間は清潔に整理され、トイレにはヒートショック予防の為に温風ヒーターを設置するなど温度管理にも気配りをしている。大きな窓からたっぷり差し込む日差しの中で入居者は、テレビを見たりそれぞれで会話をしたりとゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間であるホールにあるテーブルや椅子は大きめでゆったりとしています。全人数分が座る事の出来るソファが置いてあり、会話を楽しめたり、1人で過ごす事も出来るように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、本人の使い慣れた親しんだベッド、椅子、家具等を持って来て頂き、家族写真を飾る等各部屋様々な工夫をされています。入口に暖簾を掛け、扉が開放されつつもプライバシーは守られる工夫をしています。	清潔に整理された居室は使い慣れたベットや家具などを持ち込んでいる。家族写真や小物などで好きなように装飾し、安心して寛げる自分の居場所作りを支援している。入り口の暖簾は扉の開放と共にプライバシー保護の役目もあり、自室の雰囲気作りも演出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の移動は個々の持てる力を活用し、不安のある方は車椅子やシルバーカーを使用してもらっています。本人の出来る範囲で、食事準備、掃除、洗濯物片付け等の家事をされています。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393300047		
法人名	有限会社 はっぴい		
事業所名	グループホーム はっぴい (おおしま)		
所在地	愛知県蒲郡市三谷町伊与戸1-2		
自己評価作成日	平成27年12月10日	評価結果市町村受理日	平成28年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;Jigvovocd=2393300047-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;Jigvovocd=2393300047-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成28年1月19日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

砥神(とがみ)山の麓に位置し、少し歩けば三河湾が一望できる山海共に恵まれた環境にあります。建物は三河の材をふんだんに使った木造平屋建てで、食堂は吹き抜けで天窓があり明るくゆったりとした空間になっています。お祭り等の行事が盛んな地域で、それらへの参加や、近隣の学校の催し、運動会、近隣地域で行なわれる花火大会の鑑賞等を楽しんでいます。施設での定期的な行事以外に、木曜日にはドライブ、喫茶店等へ出掛け、好きな飲み物、おやつを食べ、お喋りをして気分転換を図り、日々の生活の一環である買い物、家事、入浴等は一緒に楽しめるように支援しています。誕生月には、やりたい事、行きたい所の希望を伺い、かなえられる様個別で対応しています。地域の方、ご家族共に支え合う関係を保ち毎日安心して過ごせるように支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅地の中に位置し、落ち着いた木造作り平屋建は地域に溶け込んだ佇まいとなっている。砥神山の裾野が広がる道の木々や草花に、四季の移ろいを感じながら散歩や買い物を楽しめる環境にある。「じっくり・じっくり・ゆっくり」の理念を基に職員は、入居者それぞれが自分らしさを発揮し安心して楽しく過ごせるように、入居者に寄り添った支援に取り組んでいる。地域の伝統行事の獅子舞や黒ごまなどを事業所で行い、近隣の人も大勢参加し賑わいをみせ、地域の方々にも馴染みの催しとなっている。入居者の希望を取り入れた献立は、買い物や敷地内の菜園で収穫した野菜などを食材にしている。日々、入居者と一緒に調理する手作りの食事は、生活をしていく中で活かす自分らしさを発揮できる支えとなっている。編み物などの手芸、ペンキ塗りや大工仕事、畑仕事など、培った経験を生活の中で活かせるように、職員はこれまでの暮らしやその人の力を支えるようにしている。広くゆったりとした居間や廊下には、絵画や入居者の作品がさりげなく飾られ、落ち着いたリビングで入居者は趣味に取り組んだり、職員との会話を楽しんだりしてゆったりと過ごしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の付く場所(トイレ、玄関)に理念を貼り出し常に意識をしています。月に1度の全員参加の会議時、順番に理念の復唱を行ない、理念の共有を図っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者との散歩時、近所の方と挨拶を交わし、地域のお祭り、運動会等への参加、正月には地域の方を招き獅子舞を披露し甘酒をふるまう等利用者や地域の方との交流に努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方とも顔なじみになりグループホーム自体の内容も理解を得られるようになってきました。今後も認知症のいっそうの理解や支援を得る事が出来る様地域のコミュニケーションに努めていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催、その間に行なわれた施設行事や利用者の状況報告を行ない、内容についての意見を委員の方から1人ずつお聞きし、サービス向上にいかすようにしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方にはホーム運営推進会議の委員として参加して頂いており、利用者の情報交換等色々な話が出来関係を築けています。また市に入る情報を役所訪問時に施設に提供して頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、勉強会等で学んだ身体拘束の知識、判断基準を、毎月の会議において管理者及び全ての職員が再確認を行なうと共に、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の会議において、虐待防止をテーマに勉強会を実施、特に「言葉の虐待」について振り返り注意を払うように心掛けています。管理者、職員が近況報告を行ない、虐待を未然に防ぐ体制作りを努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は権利擁護の内容を理解し、この制度について研修、勉強会等で学ぶ機会を持ち、それらを必要とされる利用者に対し活用出来るように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者の状況に応じ、時間を掛け分かりやすく説明を行なうよう心掛けています。説明後は不安点や疑問点をしっかりと確認しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、家族会の開催時に家族と会議を行ない、家族の意見、要望をお聞きし、内容を皆さんと討論し運営に反映させています。その後は食事や催し物を行ない、利用者、家族共に楽しく過ごされています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第2火曜日の夜施設会議を実施し、会議時には利用者個々の状況確認を行ない、運営に関しては全職員に問題点や効率化の提案をして頂き検討を図っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が「明るく楽しく元気良く」働く事が出来る環境を目指し、職員とのコミュニケーションにて身体の調子や人間関係を確認、改善出来る所は改善しやりがい、向上心を持って働く事の出来る環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地区のグループホーム協会主催の研修や勉強会に順番に参加し、スキルアップに努めています。月に1度の会議では、毎回テーマを決め勉強会を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地域(東三河)のグループホーム連絡協会に加入しており、会議や勉強会など意見交換を密にしています。近隣のグループホームのイベント等に参加し交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に、これまでの生活状態や本人の全体像を把握できるように話を伺い、入所後は本人が安心して新しい生活になじんで頂くような関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に、家族の不安、要望等をお聞きし、利用者との関係を大切にしながらサービスを提供出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、今までの担当者からの情報を把握し「その時」必要な支援を見極め、それに応じたサービスを提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で利用者の「出来る事」「やりたい事」を職員と一緒にしない、共同生活を行なう仲間としての関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「はっぴいだより」を発行し、近況報告、行事予定を伝えると共に、面会時には、利用者の現在の状況を報告し、職員は、家族と共に利用者を支えていけるような関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時のアセスメント、日常会話の中から本人のこれまでの馴染みの人や場所の情報をつかみ、家族の協力も得て外出等を行ない、関係の継続に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で利用者個々の状態を共有、把握し、利用者の孤立を防ぎ、利用者同士が支え合う関係を築く事が出来るような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退去されても、近隣である為近況が分かる事が多く、必要時には相談に応じ、支援させて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントに加え、日々の生活の中で利用者さん個々に応じた対応を心掛け、思いを汲み取り希望を叶えるようにしている。得た情報はPC記録、申し送り、カンファレンスにて職員間で共有を図っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人、家族からこれまでの生活歴、現在の生活環境、サービス利用状況の話等を伺うと共に、事業所からも情報の提供をして頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員個々で利用者さんの状況を把握し、PC入力記録を行い、全職員がいつでも確認出来るようにしている。確認が必要な事は、事務所保管の申し送りノートに記入し、サインチェックを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン実施表にて、職員が毎日チェックを行い、担当職員が評価、計画作成者に伝え、ケアカンファレンス時に見直しを図っている。本人、家族には随時お話を伺うと共に、計画の承認を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子をその都度PC入力にて個別に記入、職員間で情報の共有を図ると共に、ケアプラン実施表にて毎日チェックを行ないカンファレンス、会議にて見直しを図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況の変化に応じた外出支援、医療機関受診、ボランティアの受け入れ等柔軟な対応を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お抹茶、読み聞かせ、ギター等のボランティアの方が来て下さったり、消防と協力し防災訓練を行なう等、暮らしを安全で楽しむ事が出来るよう取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1/4W、内科医の訪問診療を受けられています。通院、他科受診は家族対応を願っていますが、難しい場合は職員が付き添い、結果を家族に報告しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入居者の日々の心身の状態を観察、看護職員に報告し指示を仰ぐと共に、必要時には主治医に報告し、適切な受診や看護を受けられる様支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に伺い、病院関係者に状態を確認、利用者にとって最善と思われる状況を見極めながら安心して退院できるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期におけるあり方について家族に意向を確認、事業所として出来る事、方針を説明し同意を得ています。医療機関と連携を取り本人や家族に不安を与えないよう支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成して対応しているが、事故発生時にはカンファレンス、会議等で事例検討にて原因を究明し見直しを図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、近所には回覧板でお知らせして、昼夜間時の火災を想定した避難訓練を消防署立ち会いの下行なっています。備蓄用倉庫に備蓄用品を準備し、各居室の入口には頭巾を設置してあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんに尊厳の気持ちを持った声掛け、話し掛けで対応しています。申し送り時は他の方に内容を知られないよう場所等を配慮し、排泄関係の言葉掛けは入居者さんの羞恥心に配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、自分の思いや希望を自己決定出来るように声掛けをしています。自己決定が難しい方に対しては、生活歴等を把握し、本人の表情、仕草から読み取る努力を行なっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは概ね決まっていますが、その中でも各個人のペースを大切にして、食事、外出、入浴等希望に添えるよう努め支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には帽子、スカーフ、化粧等のお洒落を楽しんで頂き、自分で行なう事が難しい方は本人の意向を伺い、職員と一緒に服選びをしています。なじみの美容院がある方には、送り迎えの支援を行なっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる喜びを得られるよう日々利用者個々の嗜好に注意を払い、食事の献立を作成しています。利用者の出来る範囲で職員と一緒に買物、食事準備、後片付けを行なっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、おやつは栄養バランスに配慮し、個々に合った量、形態で提供しています。起床時、入浴後の水分補給、自己管理の可能な方はポットを用意し、お茶を提供、毎日交換を行なっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行ない、ひとりでは難しい方には職員が付き添っています。口腔状態により歯間ブラシ等を利用し、夜間は義歯を外し定期的に義歯、口腔ケア用品の消毒を行ない口腔内の清潔保持に努めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、各個人に合った声掛け案内を行なう等々に合った支援をしています。個々に適した衛生用品を勧め、出来るだけ下着を使用して頂けるよう努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶はポットに常に飲めるよう用意しており、食事時以外でも起床時、入浴後、その他随時水分補給の声掛けを行なっています。朝食時には乳製品を摂取、献立も繊維の多い食材を取り入れる工夫を行なっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夕方位から入浴される事は多いですが、時間の無理強いはいはしないよう心掛けています。季節に応じてゆず湯、菖蒲湯等バリエーションを変えて楽しんで頂けるよう工夫しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションへの参加、散歩、買物等により生活リズムを整えるように努めています。個々の希望に応じエアコン、湯たんぽ、雨戸等を使用し、眠剤等を使用しないで休んで頂けるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容を全職員がすぐ確認出来るようにファイリングしています。薬は1回毎に分包し、名前、時間を記入、朝食後薬には赤線で印を付け、服薬時は利用者と共に確認、飲み終わりも確認を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事に関しては、利用者個々の出来る範囲で職員と一緒に準備、調理、後片付けを行なっています。誕生日には外食、嗜好品を楽しませ、お抹茶、読み聞かせ等のボランティアを、定期的に楽しませています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩においては、歩行困難な方は車椅子を使用、買物、回覧板は利用者と一緒に掛けている。なじみの美容院への送り迎えの支援、なじみの場所へのお出掛けは、家族と相談しながら行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の個々の持てる力に応じて買物を楽しんで頂き、支払いをして頂く機会を作っています。自己管理が可能な方は少額のお金を自己管理されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が希望される時は、事務所の電話を使用させて頂いています。手紙のやり取りを希望される方には、その都度必要品を準備し、手紙、はがきを書いて頂き、ポストまで職員と一緒に行き投函されています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内は木を多く使用している為、落ち着きがあり、窓は大きく日光を十分取り入れる事が出来る為明るいです。広さに余裕があり、主要道路から少し離れている為静かで過しやすい環境になっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間であるホールにあるテーブルや椅子は大きめでゆったりとしています。全人数分が座る事の出来るソファが置いてあり、会話を楽しめたり、1人で過ごす事も出来るように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、本人の使い慣れ親しんだベッド、椅子、家具等を持って来て頂き、家族写真を飾る等各部屋様々な工夫をされています。入口に暖簾を掛け、扉が開放されつつもプライバシーは守られる工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の移動は個々の持てる力を活用し、不安のある方は車椅子やシルバーカーを使用させて頂いています。本人の出来る範囲で、食事準備、掃除、洗濯物片付け等の家事をされています。		